



第15回エコツーリズム大賞「大賞」受賞

3月13日、第15回エコツーリズム大賞で「大賞」を受賞した鳥羽市エコツーリズム推進協議会のみなさんが市長室を訪れました。同協議会は平成22年7月に設立し、29の団体が定期的に情報共有を行い、地域の中に循環と連携を取り入れたエコツーリズムを進めています。

同協議会の江崎貴久会長は「長年の活動が評価された。鳥羽市のさまざまな機関が意見を出し合う場づくりができたことが大きい。これからも関係機関と協力して地域の観光を大事にしていきたい」と話し、受賞を喜びました。



防災について考える勉強会で意見交換

2月27日、保健福祉センターひだまりで社会福祉協議会と鳥羽市ボランティア連絡協議会によるボランティアスクールが開催され、約30人が参加しました。

ボランティアスクールとは、市民一人一人が主役と題した防災勉強会で、ワークショップでは避難所運営で不安なこと、前向きにできそうなことについて意見を出し合いました。このほか、非常食の紹介などもあり、参加者らは缶詰のパンやようかん、哺乳瓶に注いでそのまま赤ちゃんに飲ませることができる缶のミルクを試食・試飲しました。



農山漁村女性活躍表彰を受賞

3月17日、令和元年度農山漁村女性活躍表彰の農山漁村男女共同参画推進協議会会長賞を受賞した菅島町の小寺めぐみさんが市長室を訪れ、受賞報告をしました。小寺さんは海女漁を行う傍ら、地域水産物の商品化など、地域の資源を守りながら地域活性化のために活動しています。

中村市長は「小さな実績を着実に積み上げた成果が認められた」と受賞を喜び、小寺めぐみさんは「これからも多様性を認め合い、力を合わせて新しい地域づくりに取り組んでいきたい」と思いを話してくれました。



和具浦産エコラベル認証ワカメ初出荷

2月25日、「マリン・エコラベル・ジャパン (MEL)」の流通加工認証を取得した和具浦産の塩蔵ワカメの初出荷が行われました。

MEL認証とは生態系や資源の持続性に配慮した方法で漁獲・養殖された水産物に与えられるランクの高いエコラベルのことです。



鳥羽機部漁協和具浦支所運営委員会の橋本計幸さんは「味には自信があるので、このおいさが全国に伝わるきっかけになってほしい」と思いを話してくれました。